

編集後記

も共催団体に)。本号校了の22日、参院議員会館で、社民・共産・民主の議員を含む約80名の市民が参加。無限に拡大適用された治安維持法との類似を指摘する声多く、廃案を誓いあった。
(高橋武智)

◆1925年、治安維持法可決成立、衆議院賛成246・反対18。88年後「特定秘密保護法案」審議の国会や如何。☆11月3日、本誌所載の通り、第13期意見広告運動の開始となる集会を開催。記録係の私は録音と写真を担当したのですが、カメラが重くなってきたことに、年を感じるようになってしまいました。集会後、澤地久枝さんにサインをお願いいたしました。ちなみに持参したのは『私のかかげる小さな旗』。
(對馬 勇)

◆DAMとは、パレスチナの若者たちの間で絶大な人気があるヒップホップ・グループ。イスラエル在住の彼らは、被差別と貧困の日々の怒りをアラブ語ラップにこめる。ドキュメンタリー『自由と壁とヒップホップ』は、彼ら

がガザや西岸のラップ仲間と心を通わせ、分離壁を乗り越えてフェスティバルを開くまでを描く。12月14日から渋谷のシアター・イメージオールラムで公開される。絶望的な状況の中から表現へのエネルギーを引き出すパレスチナの若者たちの姿が眩しい。
(本野義雄)

◆これほど悪化する政治状況の中で、私たちの声はなぜ広がらないのか。主張が間違っていないのか、耳を傾け理解しようとする社会がバカなのか……伝えようとする私たちの気持ちと工夫が足りないかと考えるべきではないのか。言いたいことを言うだけの自己満足的な運動は卒業し、わかりやすい言葉と明快な論理で表現し、与件であるこの社会の共感を得るための発信力、それが今の市民運動の課題ではないだろうか。
(野澤信二)

◆恒例の小田実さんを偲ぶ会は、今年10月12日に「民主主義を殺させぬために」として開かれた。そこへ突然に提出された特定秘密保護法案。「法案の欺瞞を見逃すな」集会の準備に、玄香実さんやこれまでの偲ぶ会の発言者・協力団体がスクラムを組んだ(本会

◆11月23日、都内で開催された「全国スラップ訴訟止めよう!シンポジウム」にいらしてきました。高江へりパッドにいない住民の会、経産省前テントひろば、上関原発阻止被告団ほかが一室に会し、企業や政府がメンバー個人を提訴する。口封じ訴訟、攻撃を、繋がりあう力ではねかえそうと力強く宣言。今号に寄稿された岡田和樹さんも被告団の一人です。スラップ訴訟の周知と支援の輪の広がりに少しでも協力できればと思います。
(阿部めぐみ)

◆東京大空襲を体験した母の恨みは、母の弟が国民学校入学前検診で入学を拒否され、以来、家から外に出ず死ぬまで教育とは無縁だった事。小児まひの為。
(有馬保彦)

